

# 特集 鹿島のR&D –SDGsへの取り組み–

Kajima R&D -Initiatives for the Achievement of SDGs-

中川 裕章  
Hiroaki Nakagawa

## I. はじめに

2015年9月、ニューヨークで開催された国連総会において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ<sup>1)</sup>」が、国連加盟国によって全会一致で採択された。そのアジェンダに記載された2030年までに達成されるべき世界共通の国際目標がSDGs (Sustainable Development Goals) である。

SDGsは、17のゴール、ゴール達成のための行動指針である169項目のターゲット、達成度合いを測定する230余りの指標で構成される。17ゴールだけではSDGsを理解することは到底できないので、ネットで公開されている2030アジェンダやSDGsの企業行動指針であるSDG Compass<sup>2)</sup>を、是非一読いただきたい。

SDGsに取り組む上での基本方針は、以下の5項目である。

- ①普遍性：前身のミレニアム開発目標 (MDGs) は、途上国を対象としていたが、SDGsは、先進国も含めて世界中の国が持続可能な発展に向けて行動する。
- ②包摂性：地球上の誰一人取り残さないことを謳っている。
- ③参画型：国際機関、国・地方自治体、企業、NGOなど、すべてのステークホルダーが参加し、役割を担う。
- ④統合性：持続的な発展をしていくには、社会・経済・環境の3側面に統合的に取り組む必要がある。
- ⑤透明性：目標を掲げただけではなく、定期的にフォローアップを行う。

SDGsは、2016年1月1日に正式に発効した。2018年までの3年間で、各国・団体はアクションプランを作成し、各企業は、自社の経営課題と17ゴールとのマッピングを行い、マテリアリティ (自社に関わる重要課題) を特定したところであり、2019年からゴールに向けて活動を本格化し始めている。SDGsは今や世界共通の言語であり、投資家をはじめ多くのステークホルダーが、企業価値の評価指標としてSDGs経営に注視している。企業はSDGsへの取り組みを大きなビジネスチャンスと捉え、対応していく必要がある。

## II. SDGsに向けた日本政府・産業界の取組み

日本政府は、内閣総理大臣を本部長、全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」を設置し、2017年12月には、

- ・SDGsと連動するSociety5.0の推進
- ・SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり
- ・SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメントを「三つの柱」とする「SDGsアクションプラン2018」を策

定し、SDGsに本気で取り組む日本企業を後押しすることを記載した。このアクションプランは、半年ごとに改訂され、日本政府の取り組みを具体的に示してきた。そして、さらなる推進に向け、2019年6月のG20大阪サミットや9月のニューヨークSDGサミットの間を活用して、国際社会に「日本のSDGsモデル」を共有・展開し、本年中にこれらの各種取組を統合・発展させる形で「SDGs実施指針」を改訂するという「拡大版SDGsアクションプラン2019」を発表した。

また、日本経済団体連合会は、日本政府の活動に呼応して、2017年11月、Society5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱とした企業行動憲章の改定を行い、「持続可能な社会の実現が企業の発展の基盤であることを認識し、広く社会に有用で新たな付加価値および雇用の創造、ESG (環境・社会・ガバナンス) に配慮した経営の推進により、社会的責任への取り組みを進める。」と発表した。

## III. 当社のマテリアリティとR&Dの方向性

建設業は、SDGsのゴールの内、「9産業と技術革新の基礎をつくろう」、「11住み続けられるまちづくりを」など、都市やインフラの開発に深く関わっていると同時に、省エネルギーや環境負荷低減など自然環境に関するゴールへの責務が大きい産業である。また、そのほかにも企業としての社会的責任やコーポレートガバナンスに関する事項を含めると、SDGsのすべてのゴールに関係がある。その中で、当社がSDGsに最大限に貢献するとともに、持続可能な発展を遂げるために、2030年以降の社会並びに当社の将来像を想定し、「社会への影響度」と「当社における重要度」の2軸で評価して、7つのマテリアリティ (重要課題) を特定した。

これらのマテリアリティの達成には技術開発が不可欠であるため、鹿島グループでは中期経営計画におけるR&D戦略を踏まえ、以下のようなR&Dの重点課題を設定して取り組んでいく。また、Fig.1に示す既開発の20技術をp.3以降で紹介する。

### 1. 新たなニーズに応える機能的な都市・産業基盤の構築

これまで培った経験と新たな技術を融合させ、新たなニーズに応えるとともに、住みやすさ・働きやすさ・ウェルネスなどの機能の追求により、建物・インフラの構築、まちづくり・産業基盤整備の分野において先進的な価値を提案する。

#### 【R&D重点課題】

ウェルネス・健康、スマートビル/シティ

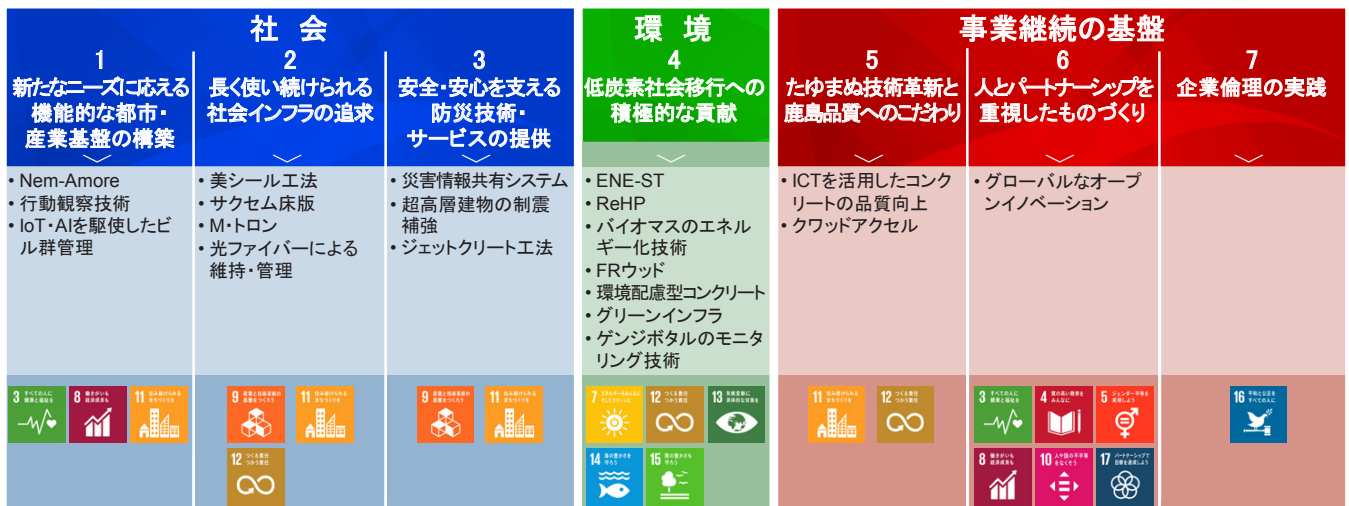


Fig.1 当社事業のマテリアリティとSDGs17ゴールとの関係、並びに今回の特集で紹介する20技術の分類

## 2. 長く使い続けられる社会インフラの追求

建物・インフラの長寿命化をはじめ、改修・維持更新分野における技術開発を推進し、将来にわたり安心して使い続けられる優良な社会インフラの整備を担う。

### 【R&D 重点課題】

建造物の長寿命化技術、インフラ維持・リニューアル技術、施設・建物管理業務の高度化

## 3. 安全・安心を支える防災技術・サービスの提供

災害に強い建物・インフラの建設や技術開発、発災時の迅速な復旧・復興のためのサービスを提供する。気候変動による影響も踏まえて防災技術の高度化に努め、安心して暮らせる安全な社会を追求する。

### 【R&D 重点課題】

制震・免震技術の高度化、気候変動を踏まえた強靱な建物・構造物の建設、BCP・リスクマネジメント

## 4. 低炭素社会移行への積極的な貢献

工事中のCO<sub>2</sub>排出量の削減、省エネ技術の開発や再生可能エネルギー施設の整備、グリーンビルディングの開発やエネルギーの効率的なマネジメントなどを通じて、低炭素社会への移行に積極的に貢献する。資源循環・自然共生にも取り組む。

### 【R&D 重点課題】

ZEB・省エネルギー、再生可能エネルギー施設、グリーンインフラ、生物多様性

## 5. たゆまぬ技術革新と鹿島品質へのこだわり

技術開発による生産性向上と安全性向上により持続可能な次世代の建設システムを構築する。また、建物・インフラをお客様に自信をもってお引き渡しするため、品質検査・保証の仕組みの不断の改善を図り、安心して建物・インフラや環境を利用いただくための品質を追求する。

### 【R&D 重点課題】

ICTを利用した生産性の向上、品質・安全の確保・向上

## 6. 人とパートナーシップを重視したものづくり

建設現場の働き方改革、担い手確保の推進と、人材の確保・育成、様々な人が活躍できる魅力ある就労環境の整備を進める。事業に係るパートナーとの価値共創と、外部との連携を活用したオープンイノベーションの推進に取り組む。

### 【R&D 重点課題】

当社技術の海外展開による現地の開発への貢献、国内外におけるオープンイノベーションによる技術の進展

## IV. おわりに

「人類と地球の未来は我々の手の中にある。そしてまた、それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある。持続可能な開発への道を我々は記した。その道りが成功し、その収穫が後戻りしないことを確かなものにするには、我々すべてのためになるのである。」これは、持続可能な開発のための2030アジェンダの結語である。

一方、2019年9月23日、国連本部で開催された気候行動サミットで、スウェーデンの高校生環境活動家グレタ・トゥンベリさんが壇上に立ち、「世界の首脳らが温室効果ガス排出問題に取り組まず、自分たちの世代を裏切った。」と演説した。政府の気候変動対策が不十分と抗議する若者の運動は世界各地に広まり、9月20日には数百万人の児童・生徒が学校ストを行った。

SDGsのゴールまでの10余年、我々は全世界が願う人類と地球の輝ける未来を後世に受け渡すために、社会・経済・環境の3側面にわたる持続可能な開発に真摯に取り組んでいかなければならない。

### 参考文献

- 1) 国際連合広報センター；持続可能な開発のための2030アジェンダ、[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/), 2015.
- 2) グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン；SDGsコンパス、<http://ungcjin.org/index.html>, 2018.